

2022 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和 4 年 6 月 14 日（火）18:00～19:00

場所：大阪医療福祉専門学校（大教室より ZOOM 配信）

書記：田中事務副部長

外部：関本 充史（業界代表）・勝元 伸二（業界代表）・湖崎 淳（業界代表）・

段上 靖治（業界・卒業生代表）・伊藤 紀美代（保護者代表）

*欠席：田中 幸恵（近隣関係者代表）・高木 枝美子（高校代表）

内部：橋本 勝信（常務理事・学校長）・中道 真樹（事務局次長）・平木たい子（教務部長）

林 亜遊（教務課長）・田中 研志（事務副部長）

●閉会の辞

●学校長挨拶：橋本学校長

本日は新型コロナウイルス感染禍の折、学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校の学校関係者評価委員会にご参加頂いたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

職業実践専門課程は、修業年限 2 年、総時間数 1700 時間、または総単位数が 62 単位以上の内容になっている。2014 年より文部科学省が新たに創設した学校制度職業実践専門課程がスタートした。これは職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とし、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定し奨励することになり、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることが目的になっている。学校関係の方では、学校評価ガイドラインに基づいて、自己評価、企業施設などの役職その他の委員で構成する学校関係者評価委員による評価の実施、また評価の評価結果の報告表並びに情報提供などの取り組みに関するガイドラインに基づく向上的情報提供、情報公開の実施が義務付けられている。本日は、この学校関係者評価委員会の方で自己点検に関するものをしっかりと議論して頂きたい。

今日は学校関係者評価委員会にご参加頂いたことにお礼申し上げますとともに、是非忌憚のないご意見を賜りたい。

●2021（令和 3）年度 重点項目結果および自己点検自己評価について（平木教務部長）

全部で評価項目は 48 項目ある。重点目標や自己評価が変化した項目についてのみ、詳しく説明させて頂く。

1-3：学校の将来構想を抱いているか。今回は、④の将来構想が大阪滋慶学園本部と共有しているにしている。滋慶学園の 3 つの教育理念に基づき、2023 年度理学療法士学科・作業療法士学科の高度専門士（4 年制）開設に向けて教育準備をすすめた。

2-5：事業計画は定められているか。重点目標⑩に「施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通り実行する」としていた。事業計画は外部環境、内部環境の変化に対し、適切に

対応出来ることを計画策定の目的とし、中・長期計画に基づく具体的な行動計画として、立案している。昨年は、計画に基づき外壁工事をおこない雨に対する安心安全を担保した。

2-9：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。重点目標⑧「業務効率化を図る情報システム化を一層整備する」としていた。教員スケジュール管理については、サイボウズを活用することにより、職員のスケジュール調整がし易くなり、コロナ感染拡大時にはテレワークシステム、マイクロソフト社の TEAMS も導入した。しかし、今のところ、情報効率化システムのツールはあるが、業務が効率的に行われているかの検証システムは明確にできていない。今年こそ、ICT 委員会を軸に学内整備をしていかないといけないと思う。

3-10：各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。昨年同様にすべて満たしていると考えている。重点目標①にも「職業実践専門課程における認定要件について、病院等と連携し質の保証・向上に対してより効果的な先進的取組推進を目指す」をあげているが、年2回の教育課程編成委員会が、まさにこの項目をチェックする機会であると考えている。

3-12：カリキュラムは体系的に編成されているか。カリキュラム編成については、教育課程編成委員会と共に随時検討を重ね、カリキュラム変更時に修正を加え、ディプロマポリシーを達成すべきカリキュラム編成となるよう工夫している。今までは、カリキュラムマップを作成したところで止まっていましたが、学生便覧に掲載・公表できたことから、加点させていただいた。

3-13：学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。カリキュラムマップを作成して、各学科の教育課程編成委員会にでも検討するようになったことから、①に○をつけた。

3-15：授業評価の実施・評価体制はあるか。重点目標⑨に「学生による授業評価の徹底を図る」をあげている。学生への授業アンケートは、実施してから何年も経っているが、学生がスマートフォンから短時間に回答できるよう ICT を用いてアンケートを前期・後期に実施、教員・講師に伝え、改善点を探り修正を行った。

3-16：育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。①～④まですべて満たしている。重点目標⑦に「教職員の更なる資質の向上を目指す。業界との一層の連携強化を図る」としていた。この①～④を満たしたうえに、教員資質向上のために修士取得、病院研修、防災コーディネーター資格、インテリア資格取得、パラリンピック派遣など、教員は資格取得や自身の専門の幅を広げている。また、業界との連携強化を図り、メディカルトレーナー部での社会貢献や高齢者福祉で地域貢献を実施できるような教員も複数いる。

4-20：資格取得率の向上が図られているか。重点目標⑤に「国家試験取得率の一層の向上を図る。全学科 100%を目指す」をあげている。国家試験結果は学校全体として改善したが、やはり 100%ではなかった。学科によっては昨年より少し下回ったという結果から、④のチェック、アクションに問題があったと考えられる。

4-21：退学率の低減が図られているか。重点目標③に「退学率の低減を図る。(2021 年度目標：4%)」としていましたが、結果は4.1%となった。休学生にも定期的に連絡は取っているが、メンタル原因の学生もあり、本人とは連絡つきにくい学生もいた。

4-22：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。重点目標⑩に「卒業生の社会的活躍及び評価を把握するとともに、支援体制を強化する」としていた。現在は、卒業生の活躍は学科教員が学会誌などから検索しているが、システム構築は課題のまま残っている。今後は同窓会とも連携して卒業後の活躍情報収集が期待される。

5-23：就職に関する体制は整備されているか。重点目標⑥に「就職目標達成(2021 年度目標：100%)」とし、就職においては100%就職実績を残せた。

5-25：学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。重点目標④に「学費完納率目標達成(2021 年度目標：100%)」とし、こちらは経理課のフィナンシャルアドバイザーが、学費工面が大変な学生や保護者様から相談を受けながら進めてきた結果、学費の未納はなかった。学費の相談は、学生さんの生活リズムやモチベーションにも関係するため、学業続行において非常に重要な問題である。

5-30：卒業生への支援体制はあるか。こちら重点目標⑩に「卒業生の社会的活躍及び評価を把握するとともに、支援体制を強化する」としていた。全学同窓会を ZOOM で開催し、研修会に参加しやすいように工夫した。またホームページをリニューアルし、卒業生が勉強会や既卒求人情報を見やすいようにした。

6-32：学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。学生全員に同レベルの実習先が確保できているかに関しては、実習地との連携を高め均一化を図っているが、いまだ課題となっている。

6-33：防災に対する体制は整備されているか。重点目標「⑫新型コロナウイルス、インフルエンザ・ノロウイルスなど感染対策を徹底する。⑬防災に対する体制を整備する。」南海トラフ地震が、いつ何時起きるかもしれないという恐れがある。年2回 火災と地震の避難訓練実施し学生・教職員の防災意識を高めている。コロナ禍で、密集した状態での避難訓練ができないため、ビデオ、パワーポイントを使用して災害時の行動と心構えを指導した。

7-34：学生募集活動は、適正に行われているか。重点目標②「学生募集目標達成(2021 年度目標：310 名)」にもあげているが、昨年は1名未達の309 人の入学となり、未達という結果となった。学校学科の強みを持つことで、より多くの方に本校をしていただきたいと思い、近年は SNS での情報発信にも力を入れている。

10-46：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。公開セミナーにおいては、コロナ禍により開催はできていないが、今後はオンラインによる実施も計画中である。

10-47：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。地域貢献活動として地域の高齢者施設に教員が学生を引率して、介護予防体操などを行い、振り返りを行っている。一昨年よりも地域貢献活動の回数が増えた。

11-48：グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか。まだ、

海外研修に行ったり、留学生受け入れはできなかったが、海外で活躍する理学療法士学科卒業生からは、定期的に配信およびオンラインによる講義を実施し、グローバルな視野を提供できていると考える。

以上、48 項目にわたっての自己点検と自己評価についてお伝えした。

●2022 年度重点項目目標説明：中道事務局次長

①総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する

- ・理学療法士学科昼間部・作業療法士学科昼間部の 4 年制への修業年限の変更

また、両学科夜間部コース活動の運営

- ・視能訓練士学科 3 年制のこども e y e コース専攻科を設置

②ICT を活用した学習への転換

- ・ICT を活用し、いつでもどこでも学習できる環境を構築する
- ・主に動画での予習を行い、反転授業ができる環境や Teams・Moodle を活用した自学自習できる環境を作る

③中途退学者 4%以内（入学→国試合格率 90%以上）

- ・中途退学者に関しては 1 年次の退学者を減少させることに注力する。特に 4～6 月で生活習慣を確立し、7 月以降学習習慣の定着を目指す。また、入学してストレートに国試合格率に対し、学校・学科の評価基軸にする。

④キャリアビジョンを明確にし、就職率 100%を目指す

- ・就職 100%を当然の事と捉え、学生一人ひとりが自分の 5 年先を明確にし、就職活動が行えるようにキャリア教育を行う。
- ・入学年次には卒業生を中心とした接触の機会を設け、進級学年時には業界講演を行い、自らのキャリアを考える機会を設ける。

⑤卒業学年の国家試験受験率 100%

- ・学内での進級・卒業基準をクリアすることで 100%国家試験合格できるような指導体制を構築する。
- ・進級学年での前後期の終わりに国家試験に対する学びのチェックとして、国家試験模試を実施し得意・不得意分野を明確にする。

⑥目的・目標が明確な入学生 330 名

- ・就業学年内の学びを明確にし、大阪医療福祉で学びたいという入学生 330 名入学を目標にする。
- ・オープンキャンパス・入試・プレスクール・初年次教育と一貫した指導を継続する。

⑦ 学費支払い困難で学業継続できない学生 0 名にする

- ・就学支援制度や奨学金（病院・日本学生支援機構）を活用するだけでなく、病院等でのアルバイト先を斡旋し就学困難な学生の支援を行う。

⑧ FD/SD による教職員の資質の向上

- ・学園・学内での研修だけでなく、学外での活動や研修会への参加を推進し、教員・事務職

員が共同して教育の質の向上を目指す。また、自らの専門領域だけでなく第二領域を作る事を推進する。

⑨ 働きやすい環境の構築

- ・学内における業務の棚卸を行い、役職者が積極的に無駄の削減する。また、ICT を活用し業務効率を上げる活動を推進する。
- ・安全衛生委員会と連動し、学内環境の整備を行う。

⑩ 防災・防犯の意識向上

- ・年一回の防災訓練だけでなく、防犯訓練も行い、学校が安全・安心な場所になるように取り組む。また、コロナ対策を行い、学内でのクラスター0を目指す。

●質疑応答

湖崎委員：昨年報告 10-46 社会貢献について、オープンセミナーを実施できていないとのことだが、対象者は学校関係者か地域の人、誰であるか。

平木：オープンセミナーは卒業生に限らず、実習先や業界、有資格者を対象としており、地域の方は入っていない。医療業界の人たちという広い枠組みである。

湖崎委員：昨年報告 6-33 防災体制について、災害時の帰宅困難者のための毛布やセキュリティも考えておられるか。

中道：毛布までの備蓄はないが、飲料水・食べ物など3日間くらいの準備はある。800名以上の学生がいるが、全員分の保管場所がないのが現状である。今後の検討課題としたい。

湖崎委員：2022 年度課題 ⑩防災訓練について、先生方が戦うのか。池田小学校の例もあるが、さすまたを含めた戦う準備か。

中道：学校にはさすまたを置く基準があり、1本は置いている。誰が使うのかは課題である。今年は10月か11月ごろに外部講師を招いて教職員が研修をしたい。

段上委員：全学同窓会、OB 会会長をしている。昨年度報告 5-30 卒業生支援体制はあるか？
たとえば、一応4項目とも○だが、この項目を発展させる必要がある。4-22の卒業生・在校生の活躍評価は把握しているかという点、卒業してからの働き方を追うだけでなく、在校中から同窓会について考える、卒業後の働き方を考えていく、1年の段階から今後の事を刷り込んでいくことが大事である。5-30と4-22はリンクすると思う。今後、各学科に落とし込んで発展して欲しい。

中道：今年度重点目標の④キャリアビジョンを明確にすると書いているが、例えば在校中から理学療法士になってどんな働き方をするか考えるという点は、段上委員と同意見である。こちらは何年もかかるかと思うが、環境を構築していきたいと考えている。

段上委員：理学・作業は、修業年限が変わるしコース活動もある。また、指定規則が変わり実習先要件も変わるという点で、学生がどういう専門職として働いていくのかという目標もできたら退学も減るのではないか。すべてに繋がることと考える。

また、今年度重点目標③に入学→国家試験合格90%以上とあるが、2021年の実績は何%

くらいか。

中道：この数字は即答出来かねるが、学科によっては95%、あるいは85%程度という学科もあったと思う。実習で中断、留年、休学となる学生も気になる。退学だけではなく、そういう学生をどうするのかという課題としてあげた。

関本：今回から業界代表として出席させていただく。2022年重点目標③中途退学4%以内とあるが、昨年振り返りの5% 学生支援に該当するかと思う。学生には学費の問題、健康管理などもある。でんわホットラインがあるのも良いことかと思う。

中道：学園にはSSCというものがありカウンセラーが常駐している。様々な問題を抱えている学生が多く、自分が教員になったころとは背景が変わり、原因が一つでないのが現状。学費や健康管理面からもフォローしていきたい。

勝元：話を聞いていて非常によく取り組んでおられると感じる。2022年重点目標⑤卒業学年国家試験受験率100%とあるが、卒業基準を下げるのではなく、試験回数を増やして数多くの方が合格してもらえたらいいなと思う。

段上委員と同意見だが、振り返り4-22 就職することが目標達成になってビジョンが曖昧になりがち。現場として、どうやって育てていったらよいか。学校も就職が終わりではなく、そこから先も考えられるような指導をしてほしい。また、6-32 学外実習であるが、学生全員に同レベルの実習地確保できていないという点においては、私どもお現場の責任でもあると思うので努力したい。

あと、さすまたの件だが、使い方が難しい。我々の勤務先では警察にお願いして講習を受けてよかったので参考にしてほしい。2-8 意思決定システム確立されているという点、病院でも患者から意見は大切である。学生教職員の意見をひとつでも多く吸い上げてほしい。

中道：学校では、言い方はよくないが学生に対して高圧的にならないように意見を吸い上げていきたい。さすまたの件も参考にさせて頂く。今後、警察との連携も必要と感じている。

伊藤委員：保護者の伊藤です。学校に足を運んだことはないが、今日聞いてよくわかった。娘の話からは、先生が学生の意見を聞いて実現してくれると聞いているし安心している。学生が、数年後のキャリアビジョンを描いてほしい。卒業生が後輩に伝えるなど連携をしてほしい。今の国家試験勉強に目が行きがちだが、将来のキャリアビジョンを描けるようになることは大事である。

中道：ビジョンを描いていけるように一歩ずつ進めるようにしたい。保護者会を開催するのぜひ出席頂きたい。

●学校関係者評価実施に関する説明：平木教務部長

先日送付した評価項目を記入していただき、コメントも是非書いて頂きたい。同封している返送用封筒に送って頂きたい。6月末を締め切りとしている。

●閉会の辞